えんちょう通信

No.１０７
令和 ５年 １０月３日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤 一男

環境を通して行う教育

９月２９日(金)、朝から空が真っ青に晴れ渡っています。園庭に出てみると、シジュウカラが、「ツピー　ツピー」「ツピー　ツピー」と澄んだ声で鳴いています。

園庭に目をやると、そこには玉入れのかごが立ててあり、その周りには赤い玉が、まるく並べてあります。

こんなふうに玉が並べてあったら、もう子どもはワクワクしてきます。誰だって玉を拾って、かごに投げ入れてみたくなるのではないでしょうか。

さっそく園庭に駆け出してきた男の子が、赤い玉を拾って、かごに向かって投げ始めました。いくつも入ったので大喜びです。そばにいた先生も、うれしそうに見てくれています。誰も言わなくても自然に運動会の練習になっていきます。

子どもは、自分からやってみようとするときに、最もよく学びます。

ですから子どもたちが興味や関心を持てるように、必要な道具や素材の準備などに配慮することはとても大切です。好奇心が刺激される「環境」を整えておくことで、子どもたちは自分から遊びや活動を始めるのです。

幼稚園の教育は、「環境を通して行う教育」であると言われています。幼稚園教育要領解説には、次のように書かれています。

「幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。」(平成３０年３月２３日『幼稚園教育要領解説』文部科学省)

子どもたちが登園する前に玉入れ入れのかごを用意し、そこに玉を置いてくれる先生がいて、子どもたちは自ら進んで遊びに入っていくことができます。

そして、子どもたちが楽しそうに玉入れをやっている姿を見ながら、スコップを握って、砂場を掘り起こして、砂を柔らかくしている先生もいます。

そうやって整えられた「環境」の中には、先生方の子どもたちへの思いや願いがいっぱい詰まっているのだと私は思います。